

種子島宇宙センター

種子島宇宙センターは鹿児島県の南、種子島の東南端の海岸線に面し、総面積970万平方メートルの日本最大のロケット発射場です。当センター内には、「大型ロケット発射場」、「衛星組立棟」、「衛星フェアリング組立棟」などの設備があります。これらの設備で、ロケットの組み立て、整備、点検、打ち上げ、人工衛星の最終チェックからロケットへの搭載、打ち上げ後のロケットの追跡まで一連の作業を行っており、日本の宇宙開発において人工衛星打ち上げの中心的な役割を果たしています。



燃焼試験

ロケットエンジンの地上燃焼試験を行い、燃焼作動データなど、さまざまなデータを取得します。



組み立て

ロケットおよび人工衛星の組み立て、整備・点検などを行います。



打ち上げ

移動発射台に載せたロケットを射点に移動させ、燃料や酸化剤の充填を行い、ロケットの打ち上げを行います。



打ち上げ管制

ロケットから送られてくる加速度、圧力、温度、位置などの情報を受信し、打ち上げ管制作業を行います。

宇宙科学技術館

宇宙科学技術館は、宇宙と地球がつながる瞬間をもっと身近に感じられる種子島ならではの「生きた場所」として、とっておきの体験ができる展示施設です。

館内には、ロケットの部品に触れるコーナーやタッチゲームなど、触って体験できる展示がたくさんあり、全身で宇宙を感じながら楽しみいただけます。

また、館内のリフトオフシアターでは、壁面と床面を活用した大画面の映像・音やスモークで、打ち上げを射点間近で見上げているような臨場感を体験できます。



大迫力で打ち上げを体験、リフトオフシアター



4つのエリアでとっておきの体験を



「きぼう」模型内フォトスポット

開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合は火曜日、8月は原則無休) 年末年始(12月29日～1月1日) (※ロケットの打ち上げなどで休館する場合があります。)
電話番号 0997-26-9244(宇宙科学技術館直通) 0997-26-9125(音声ガイダンス)
入館料 無料
 施設案内ツアーを運行(火～日)致しております。詳しくは、宇宙科学技術館におたずねください。

所在地



交通機関のご案内

飛行機
 鹿児島空港から種子島空港 30分
 種子島空港からタクシー・レンタカーで 50分

船
 ジェットフォイル
 鹿児島「南埠頭」から種子島「西之表港」 1時間35分
 西之表港からタクシー・レンタカーで 1時間30分

ロケット打ち上げ見学場所のご案内
 ロケットの打ち上げは、射点から半径3km以上離れた場所であれば自由に見学できます(ただし、種子島宇宙センター敷地内を除く)。「宇宙ヶ丘公園」「長谷展望公園」などが見学場所として南種子町により整備されています。

種子島宇宙センター
 〒891-3793 鹿児島県熊毛郡南種子町大字荻永字麻津
 Tel. 0997-26-2111(代表) Fax. 0997-26-9100
 種子島宇宙センターウェブサイト
<http://fanfun.jaxa.jp/visit/tanegashima/>



広報部
 〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台4-6御茶ノ水ソラシティ
 Tel. 03-5289-3650 Fax. 03-3258-5051
 JAXAウェブサイト <http://www.jaxa.jp/>



JSF170410T



種子島宇宙センター



国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構

新しい価値を 人へ、国へ、この星へ

現在、宇宙開発・宇宙利用を取り巻く環境が大きく変化するなかで、JAXAにも宇宙科学などのフロンティアに加え、安全保障・防災及び産業振興なども含めた今までにない重要な役割が期待されています。私たちは、従来の技術開発と実証を中心とした取り組みを進展させ、企業・大学などとの連携を通じて宇宙航空産業の裾野を拡げるとともに、社会的・産業的価値の創出によって安全で豊かな社会の実現に貢献します。ダイナミックに変化する社会の要請に技術で応え、新しい時代を切り拓くことが、私たちの使命です。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の活動

- 人工衛星による宇宙利用** 地球環境観測・災害監視への取り組みや通信、測位技術の発展により豊かな暮らしを実現します。
- ロケットなど輸送システムの開発** 日本が培ってきたロケット技術を発展させ、技術基盤の維持とさらなる高度化・低コストを図り宇宙開発の発展に応えます。
- 宇宙科学の研究** 宇宙の起源と進化、生命誕生の謎に挑みます。宇宙環境での実験と先端的な工学研究を行い、研究成果を通じて人類の未来を拓きます。
- 宇宙環境の利用** 「きぼう」日本実験棟や宇宙ステーション補給機「こうのとり」を安全かつ着実に運用し、国際社会に貢献します。
- 航空技術の研究** 「環境」と「安全」を中心とした研究開発を進め、日本の航空産業の成長と安心できる社会の実現に貢献します。
- 基礎技術基盤の研究** 宇宙航空分野の先端・基盤技術を向上させ、日本の産業競争力の強化に貢献します。



種子島宇宙センターは人工衛星を打ち上げるための施設です。

大型ロケット発射場配置図

★拡大図(A)

第1射点 (H-IIA) (写真左) 第2射点 (H-IIB) (写真右)

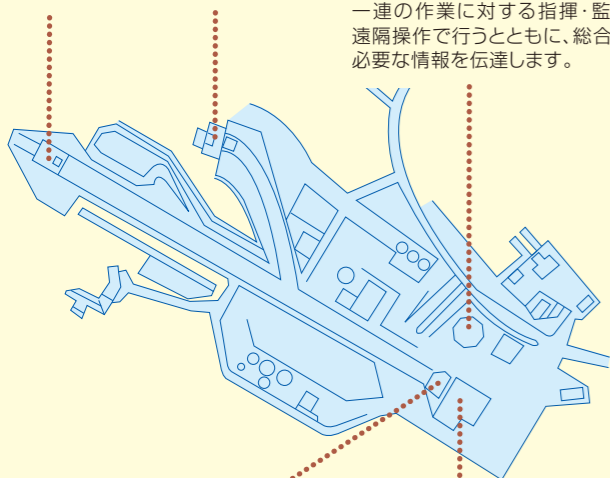


第1射点ではH-IIAロケットの、第2射点ではH-IIBロケットの打ち上げを行っています。

大型ロケット発射管制棟 (B/H)



射点から500mの地下12mに発射管制室があります。ロケット打ち上げまでの一連の作業に対する指揮・監督などを遠隔操作で行うとともに、総合指令棟に必要な情報を伝達します。



大型ロケット移動発射台 (ML)



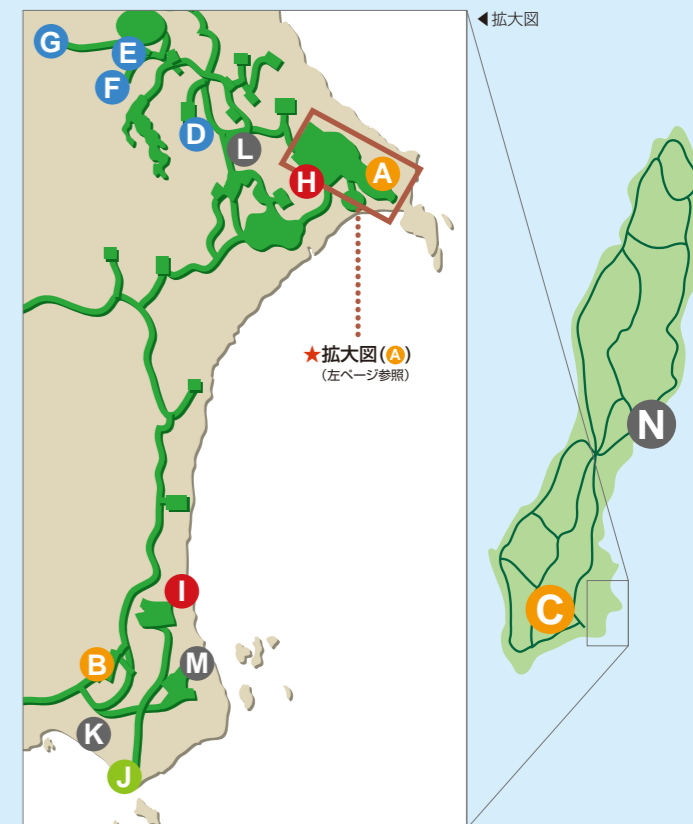
大型ロケット組立棟 (VAB)



工場から搬入されたロケットを組み立て・整備・点検するための設備で、2機のロケットを並行して組み立てることができます。ロケットを大型ロケット移動発射台の上に組み立てていき、最後に人工衛星とフェアリングを取り付け、射点へ移動します。VABの高さは81m、幅64m、奥行34.5mです。



大型ロケット組立棟から見た大型ロケット発射場



★拡大図(A) (左ページ参照)



A 大型ロケット発射場 ◆

宇宙センターの北側を占める大型ロケット発射場では、H-IIA、H-IIBロケットの組み立て、整備・点検、燃料充填、打ち上げを行っています。



H 液体エンジン試験場

H-IIロケットの心臓部とも言える第1段エンジンの地上燃焼試験場として整備され、その後はH-IIAロケットの第1段エンジン(LE-7A)の燃焼試験を行いました。現在は、H3ロケット開発のために第1段エンジン(LE-9)の燃焼試験を行っています。



B 総合指令棟 ◆

ロケット打ち上げの頭脳となる施設です。ロケット打ち上げの際には、ここに、打ち上げに関わる各作業の責任者が入ります。全ての情報はここに集められ、発射および追尾、安全管理など、打ち上げに関するあらゆる決定を行っています。



I 固体ロケット試験場

強い推進力を生み出す固体ロケットブースターの地上燃焼試験を行う設備です。今後、現在開発中のH3ロケットの固体ロケットブースター(SRB-3)の燃焼試験が行われる予定です。

C 宇宙ヶ丘追跡所

打ち上げられたロケットから送られてくる状態・位置・姿勢の情報(テレメトリーデータ)を受信し、総合指令棟に送ります。



D E F G

衛星組立棟・衛星フェアリング組立棟

これらの設備では、人工衛星の組み立てや試験、衛星を保護するカバーであるフェアリングを取り付ける作業を行っています。



J 竹崎展望台 ★(屋上のみ)

ロケット打ち上げ時には、報道機関の取材場所となります。取材用スタンドのほか建物内には、記者会見室、プレスセンターなどがあります。



K 宇宙科学技術館 ★

宇宙科学技術館では、日本の宇宙開発を幅広く知っていただくために、ロケットを中心に、人工衛星、国際宇宙ステーション、月・惑星探査などについても、展示・紹介しています。



L ロケットガレージ ◆

H-IIロケット7号機の実物をはじめとしたロケットの部品を、実物ならではの圧倒的なスケール感、迫力などが感じられるよう展示しています。

M 小型ロケット発射場 ★

小型ロケット発射場は、宇宙センターの南端にあり、小型ロケットの組み立て、点検・発射管制などを行っていた設備が展示されています。

N 増田宇宙通信所 ★(展示室のみ)

レーダーによるロケットの追尾、ロケットから送られてくるテレメトリーデータ受信のほか、人工衛星追跡ネットワークの一局として、人工衛星の追跡およびテレメトリーデータの受信も行っています。